（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	近藤義和	所　属	産学官連携推進機構	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	25.0	1. 工学部での知財授業担当（「情報創造工学」2単位） 2. 教員に対する共同研究や共同出願の契約、知財関連をOJTにて都度教育。 3. 知財関連セミナー、学部教育実施し、全教員の知財マインドを高める。10回程度。 4. JICA研修教育。	25.0	1. 完了（「情報創造工学」2単位）。工学部3-4年生を中心に26名受講。評価表提出。また、一般教養教育：「職業と人生」講義完了。 2. 教員に対する共同研究や共同出願の契約、知財関連をOJTにて都度教育(益崎教授、柴田教授、田場准教授、他)。 3. 知財関連セミナー（リサーチツール、MTA等）を実施し（農学部、医学部、熱生研）、知財マインドを高める。6回実施。 4. JICA外国人研修生教育。 5. 東京工業大学（資源研究所）で講義
研究	30.0	1. 外部資金獲得研究の推進 ・大阪ガスからの受託研究の推進管理（バイオマスを利用した機能性材料の開発：4年目） ・国際共同研究プロジェクト2件の推進管理（マーシャル海水淡水化Pro.　ボツワナヤトロファPro.） 2. 学内外のアライアンスを強め、研究の活性化を促す。高専とのアライアンス（2回程度）。	30.0	1. 外部資金獲得の推進 ・大阪ガスからの受託（活性炭他）（300万円＋現物：代表者）：H24 ・沖縄県からの受託研究（省エネ型植物工場）（6200万円：共同研究者）：H24-26 ・国際共同研究推進；STAREPS(ボツワナ：共同)、JIRCAS（マーシャル：代表）：順調に推進：H23-27 2. 学内外のアライアンス ・文科省国際拠点の応募（高専と共同提出、10年間30億円）→不採択。別の農水省ファンドに応募中。 ・沖縄高専と衝撃波利用：モズク系凝集剤の前処理（大きな効果あり） ・九州大学と炭素材料の微細構造分析、ｼﾐｭﾚｰｼｮﾝで共同研究。→「高分子」寄稿依頼（H25/10号） 3. 論文等(first＋査読論文のみ) ・Y.Kondo(first), et al; "A new application of bagasse char as a solar energy absorption and accumulation material",Earth and Environmental Science Transactions of the Royal Society of Edinburgh, 103, 1-8, 2012(査読有) ・Y.Kondo(first) et al; "NOVEL APPLICATION OF BAGASSE CHAR FOR PRODUCTION OF FRESHWATER FROM SEAWATER BY SOLAR ENERGY VAPORISATION", INTERNATIONAL SOCIETY OF SUGAR CANE TECHNOLOGISTS, in print(査読有) ・特許登録1件：近藤(first)ら： ・意匠登録2件：近藤(first)ら：
社会貢献	15.0	1. 中城村との包括連携の具体的推進：LNG活用、新型植物工場共同研究の推進 2. 知財エクステンションスクール推進（生涯学習センターを教室。総合事務局と主催し工業連合会、商工連合会共催）。 3. 学会活動（高分子学会理事、成形加工学会年会実行委員）、雑誌査読（米科学誌）、外部審査委員（JST等）、等 4. 企業団体への研究成果の紹介（工連ニュース（月刊誌）への連載、イベント出展研究冊子の配布）	15.0	1. 中城村との共同研究の推進：LNG調査（H24-25：1000万円代表者） 先進地視察（村長はじめ12名を引率し、九電、九大、大阪ガス、東京ガス関連施設を視察） 非常に有効・有益であった。 2. 知財エクステンションスクール実施：15回実施。好評であった。来年度も実施 3. 学会活動：高分子学会幹事、外部評価委員（JST） 4. 企業団体への研究成果の紹介（工連ニュースに毎月連載を継続、H24年度12回連載）
管理運営	30.0	1. 発明審査委員長として、1回/月に審査委員会を主催。 2. 大学知財（特許、商標、有体物、著作権、名称使用）の発掘、確立、効率的な管理・活用制度の確立と外部資金の導入の促進 3. 新技術説明会等外部イベントの推進（新技術説明会、Innov..Japan,Bio-Japan,Agri-Business,Nano-TechJapan） 4. 有体物ベータベース化の立ち上げと関連学部・教職員への周知 5. 機構の毒劇物管理者として安全管理：毒劇物管理の徹底 6. 研究推進戦略室員として研究と知財双方に高度化・促進の効果が出る仕組みの検討を行う。	30.0	1. 発明審査委員長として、12回に審査委員会を実施。発明届22件、審査請求、維持年金支払い等を審議。 2. 知財の確立：特許登録査定：15件(内海外2件)、品種登録：1件。 知財活用：知財収入は今年度約500万円近くになる。これは知財維持経費とほぼトントン。制度の整備が進み、特に名称使用、有体物提供、商標使用について多くの活用ができた。包括的な知財活用方法を確立した。また、実用化に関しては柴田教授(工)の複合材料がﾚｸｻｽ、ｸﾗｳﾝに採用された。また、益崎教授（医）は100万円のイニシャルでアステラスでノウハウ提供を行った。有力企業への供与が増えてきている。 3. 新技術説明会等外部発表の推進（新技術説明会、Innov..Japan,Bio-Japan,Agri-Business,Nano-TechJapan)で多くの集客があり、共同研究、有体物提供、新聞発表に結びつき、大学の知名度を上げることが出来た。 4. 有体物ベータベース化の立ち上げが出来、医学部、熱生研で周知を行った。 5. 毒劇物管理を厳密化した(EC21適)。保管庫、方法、記録、廃棄物処理。 6. 研究推進戦略室員として研究行政へ貢献できた（各種学内資金応募の審査）。
進路指導	0.0		0.00	工学部授業の中で数人から進路の相談を受け、指導した。
	0.0		0.00	
計	100.0	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	100.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	玉 城　理	所　属	産学官連携推進機構	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	①「先進・実践結合型IT人材養成事業」（APITT）の実績を踏まえ、沖縄TLOと連携して事業を継続する。 ②学生の起業意識啓発するため学生ビジネスアイディアコンテストを開催する。また、意欲のある学生についてはアイディアの具体化を支援する。	0.30	①沖縄県情報産業協会の実施するIT産業人材育成にAPITTの成果及びノウハウを提供し研修を企画を支援した。APITT単独開催は再検討中。 ②県に起業教育事業を提案・受託し地域の大学と連携した起業教育の充実強化を図った。本事業で配置した田場研究員と連携し、第5回沖縄学生ビジネス・アイディア・コンテストを実施するとともに、実践を伴う第１回沖縄学生ビジネス・トライアル・コンテストを開催した。 ③この結果を踏まえ、観光産業科学学部と連携しH25年度新規講義を開設した。
研究	0.10	①沖縄の情報関連産業、健康関連産業等の分野における産業振興発展方策について調査研究を行う。	0.10	①沖縄県情報産業協会と連携し「沖縄クラウドデータセンター構築調査」を行い、IT産業振興・発展に向けた提案を行った。 ②沖縄TLOと連携し「研究開発支援事業の現状・課題調査」を行い、研究開発支援の改善に向けた提案を行った。
社会貢献	0.50	①本学及び教員等の有する知的財産を活用した大学発ベンチャー育成支援に取り組む。 ②沖縄県等と連携し健康バイオ産学官連携拠点の形成に取り組む。 ③沖縄TLOと連携し産業振興の支援に取り組む。	0.50	①県の大学発ベンチャー創出支援事業に農学部本村教授のプロジェクトを提案・採択され、これを活用して大学発ベンチャーの育成支援を実施した。 ②沖縄県及び沖縄TLOと連携し「沖縄健康バイオ産業推進ネットワーク」を運営するとともに、ワーキンググループの活動支援を行った。 ③沖縄TLOと連携し、健康バイオ等の分野で各種の支援事業を実施し、健康バイオ関連企業の振興発展を支援した。
管理運	0.10	①全学情報システム専門委員会等の委員会活動に参加する。	0.10	①全学情報システム運営専門委員会に1回参加した。
進路指導	0.00			
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）					
名　前	宮里大八	所　属	産学官連携推進機構	職　名	特命准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.20	・沖縄県と連携し、海外インターンシップ支援事業、起業家人材の育成、世界若者ウチナーンチュ連合会のﾌｫﾛｰｱｯﾌﾟ体制構築等、ソーシャルイノベーションを生み出すため学生が主体的に実施する産学官連携の支援を行う。 ・琉球大学の就職センターと連携し、産学官連携によるキャリア教育、就職支援活動を行う。	0.20	・沖縄県と連携し、海外インターンシップ支援事業、起業家人材の育成、世界若者ウチナーンチュ連合会のﾌｫﾛｰｱｯﾌﾟ体制構築等、ソーシャルイノベーションを生み出すため学生が主体的に実施する産学官連携の支援を行った。［ソーシャルアントレプレナーのサポート(3団体)、SIFE国内大会（2団体）］ ・琉球大学の就職センターと連携し、産学官連携によるキャリア教育、就職支援活動を行った。［就職センター講義（2回）、観光産業科学部講義（1回）］
研究	0.30	・外部競争的資金の獲得に向けて、研究プロジェクトの構築支援を行う。 （目標件数　8件）	0.30	・外部競争的資金の獲得に向けて、研究プロジェクトの構築支援を行った。[実績数18件。JST A-STEP提案11件、経済産業省戦略的基盤技術高度化支援事業提案2件、沖縄県知的・産業ｸﾗｽﾀｰ形成推進事業「ﾍﾞﾝﾁｬｰ創出支援事業」提案2件、農林水産省6次産業推進地域支援事業提案1件、沖縄県ﾗｲﾌｽﾀｲﾙｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝ創出推進事業提案2件]
社会貢献	0.40	・琉球大学の研究成果発表、研究シーズと企業ニーズとのマッチング等の産学官連携の促進・強化、啓発活動を行う。（目標件数　8件） ・産学官連携コーディネーターの人材育成、県内外の産学官コーディネーターネットワークの構築を行う。（目標件数　8人）	0.30	・琉球大学の研究成果発表、研究シーズと企業ニーズとのマッチング等の産学官連携の促進・強化、啓発活動を行った。[実績数8件。BIO2012 Boston(1回)、、琉球大学新技術説明会(1回)、沖縄CD活動NW 九州沖縄地域会議地域同時開催(1回)、イノベーションジャパン(1回)、バイオジャパン（1回）、沖縄の産業まつり（1回）、IWS2013 UAE（1回）、全国バイオ関係者会議2013（1回）、沖縄産学官イノベーションフォーラム（1回）] ・産学官連携コーディネーターの人材育成、県内外の産学官コーディネーターネットワークの構築を行った。[実績数8人]
管理運営	0.10	・沖縄における健康・バイオ関連産業、環境関連産業、情報通信関連産業等の産学官連携の拠点の構築に向けた支援を行う。 ・地域自治体との包括的な産学官連携協定の構築支援を行う。	0.20	・沖縄における健康・バイオ関連産業、環境関連産業、情報通信関連産業等の産学官連携の拠点の構築に向けた支援を行った。[沖縄健康バイオ産業推進ネットワーク、沖縄産学官連携推進協議会、沖縄型知的・産業クラスター形成に向けた長期ビジョン検討業務] ・地域自治体との包括的な産学官連携協定の構築支援を行った。[南城市との連携協定の構築支援]
進路指導	0.00		0.00	
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。